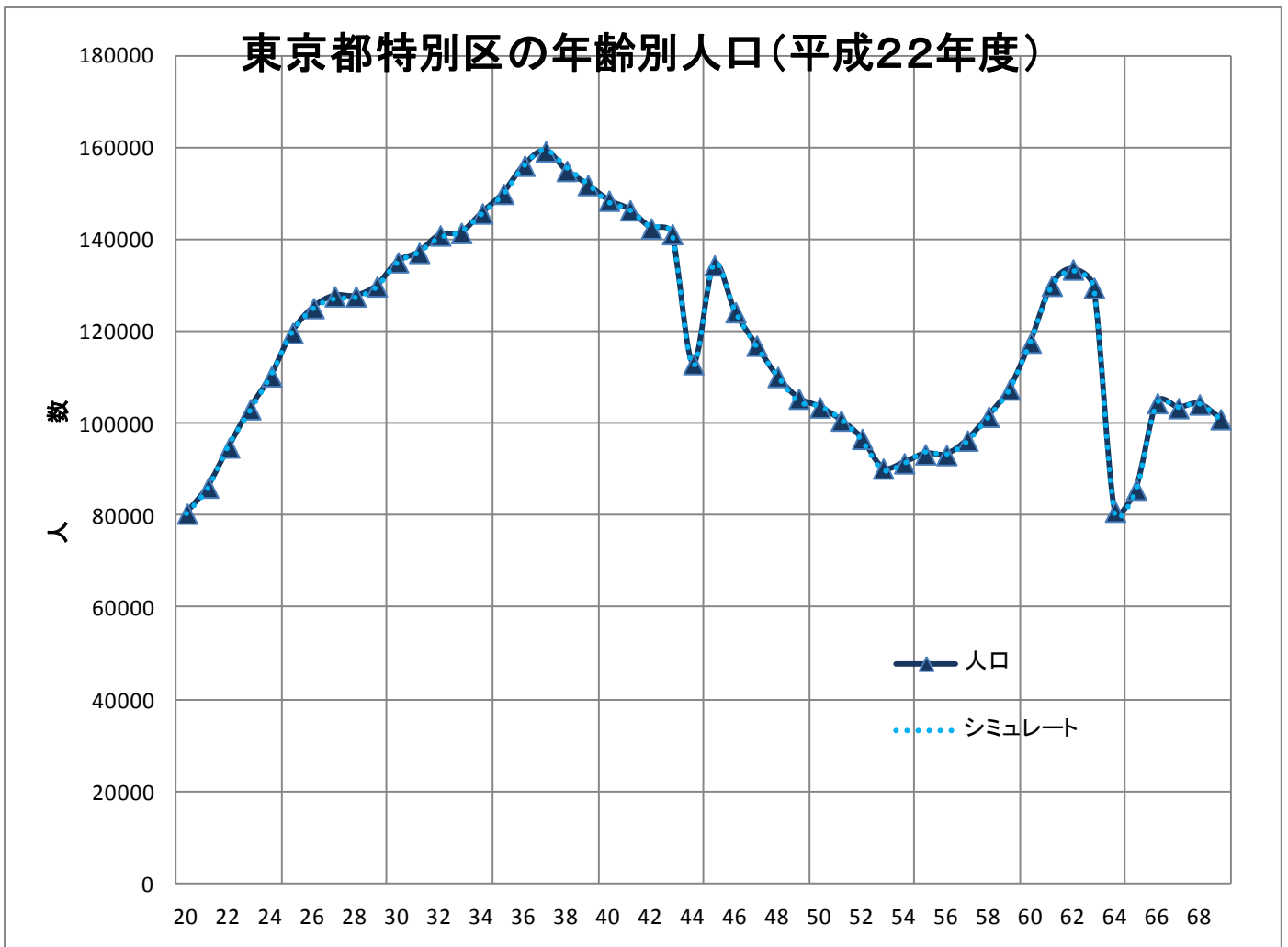


一回目と二回目の審査員の平均年齢 34.55 歳について

「起訴議決」をした二回目審査員の平均年齢が 30.90 歳と公表されたとき、その低すぎる平均年齢に一齐に不審の声が上がりました。結局は二転三転して 34.55 歳だったと訂正されましたが、今度は一回目と二回目で全て入れ替わっている審査員の平均年齢が全く同じ 34.55 歳となってしまいました。この一回目と二回目の審査員の平均年齢 34.55 歳は果たして低すぎるのでしょうか。

東京都特別区の年齢別人口

第五検審の管轄する選挙管理委員会は東京都特別区と島しょです。第五検審の審査員はこの管轄の選挙人名簿の中から選ばれます。小沢審査会の審査員は平成 21 年第 4 群が平成 20 年 9 月、平成 22 年第 1 群から 3 群の審査員が平成 21 年 9 月に登録されている選挙人名簿から選ばれています。平成 22 年度の国勢調査データに東京都特別区の年齢別人口がありますので、選挙人名簿の年齢別人口がどうなっているかを見てみましょう。



最も人数が多いのが 37 歳で、30 歳から 45 歳（44 歳は丙午）までの人数は団塊の世代よりも多いことが分かります。西松建設の二階ルートの第三検審の審査員（第五検審と同じ管轄です）であったという A 氏の証言に「ざっと見たところ、審査員の平均年齢は 30 代前半で・・・」というのがありますが、あり得る話しのようにも思えます。では、審査員 11 人の平均年齢、34.55 歳は低過ぎるとは言えないのでしょうか？

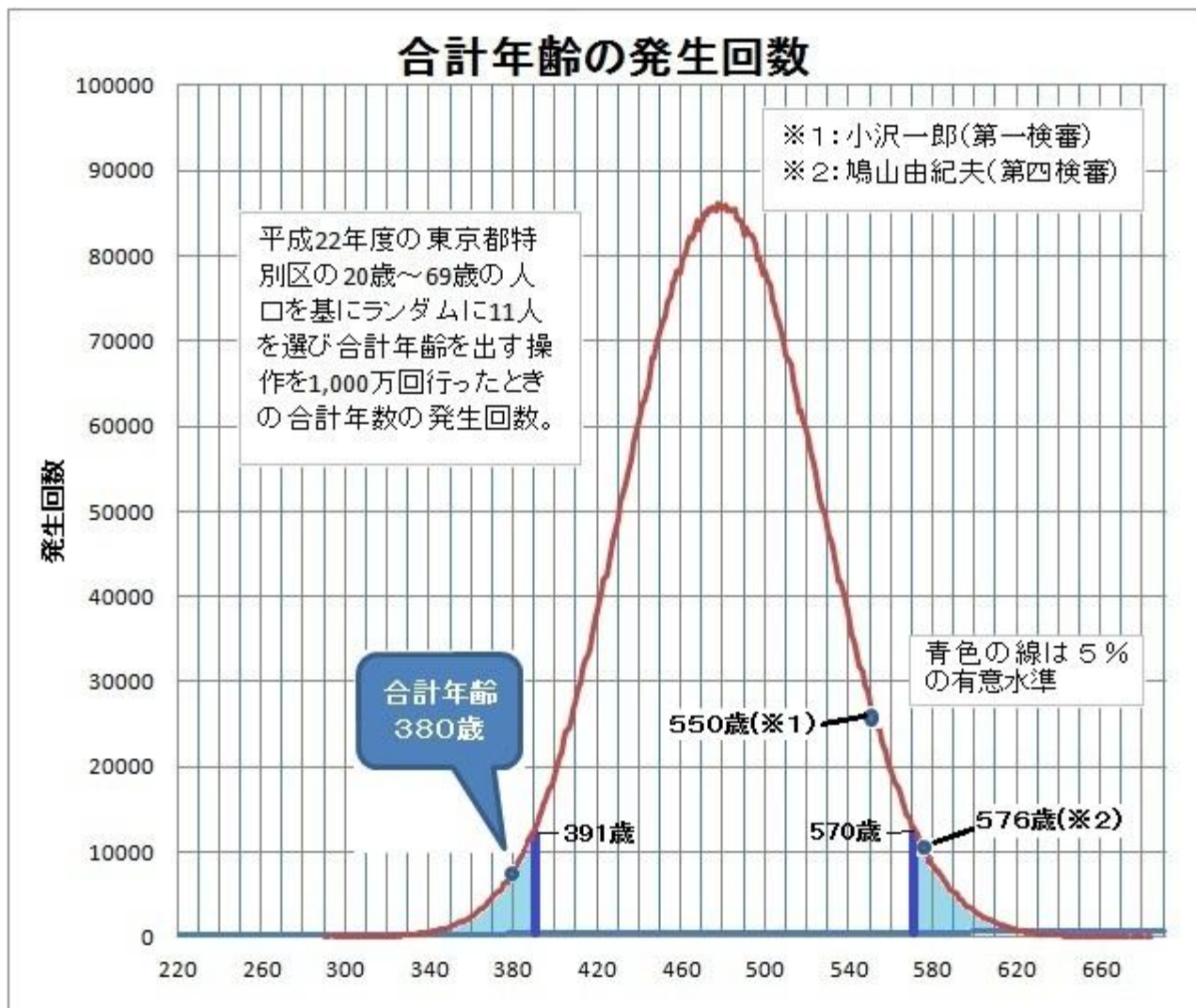
平均年齢 34.55 歳について

この年齢別人口をもとに 11 人の審査員を選ぶシミュレーションプログラムを EXCEL の VBA (Visual Basic for Applications) で作って動かしてみました。上の図でシミュレートとあるのはシミュレーションプログラムの乱数の発生と年齢の逆引き処理が正常に動作するかを 1,000 万回実行したものです。実際の年齢別人口とピッタリ重なっているなのでその処理には問題がないことが分かります。

このシミュレーションプログラムの仕様は至って簡単で次の通りです。

- ① 特別区の 20 歳から 69 歳 (70 歳以上の人は審査員を辞退出来るため省く) までの 5,923,065 人に 1 番から 5,923,065 番までの番号を付けます。
- ② 1 から 5,923,065 までの間で乱数を発生させ、それぞれ出た乱数の番号に対応する人の年齢を求めます。
- ③ それを 11 回繰り返して、11 回の合計年齢を求めます (11 回の中で重複番号が発生しないように制御)。
- ④ ②~③を 1,000 万回繰り返し、合計年齢別に発生回数をカウントします。

7 分程で 1,000 万回実行することが出来ますが、その合計年齢別の発生回数をグラフ化すると以下のようになります。ここで合計年齢 380 歳というのは第五検審 11 人の平均年齢 34.55 歳を表していますが、発生回数は約 8,400 回でした。

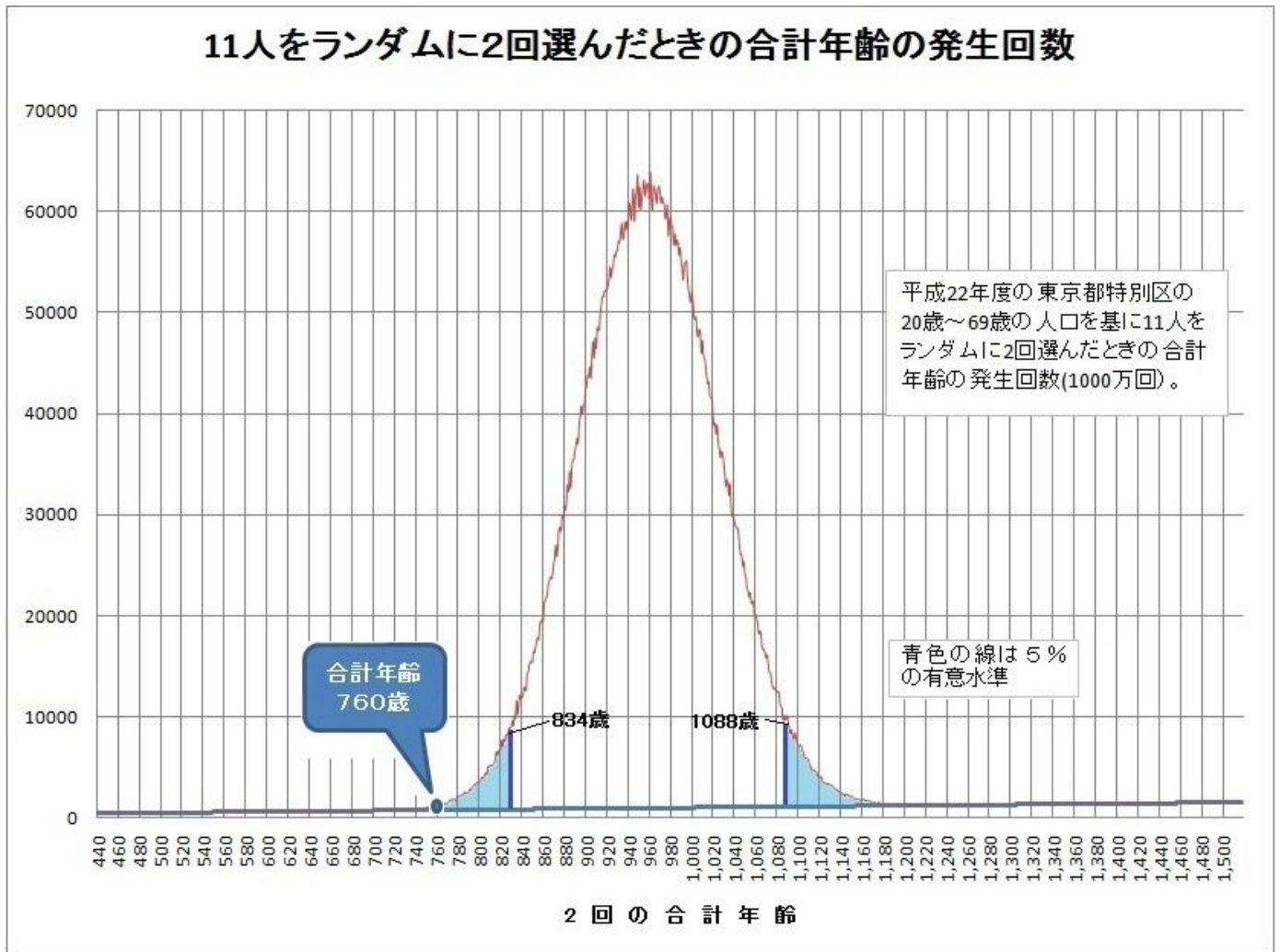


ちなみに、第一検審と第四検審も管轄は同じですので、小沢一郎氏の別案件、平成 19 年収支報告書案件を審査 (「不起訴不当」で議決) した第一検審審査員の平均年齢 50.00 歳 (合計 550 歳) と鳩山由紀夫氏の政治資金

規正法違反案件を審査（「不起訴相当」で議決）した第四検審査員の平均年齢 52.36 歳（合計 576 歳）も併せて載せてみました。ここで、有意水準（確率的に偶然とは考えにくく、意味があると考えられる基準）を 5% にすると、左右それぞれ 2.5% の位置の 391 歳と 570 歳が有意水準となります。小沢一郎氏を審査した第五検審査の合計年齢は有意であり、また鳩山由紀夫を審査した第四検審査も平均年齢が逆に高いことで有意となります。しかし、グラフで見る限り、驚くほどの有意性はないことが分かります。

平均年齢が 2 回続けて 34.55 歳となるのは

ここで、さらにこの作業を 2 回繰り返すとどうなるでしょう。2 回繰り返した場合の合計年齢をグラフ化すると次のようになります。



760 歳というのは平均年齢 34.55 歳が 2 回続けて起こったときの合計年齢です。ここでは一回目が 381 歳で二回目が 379 歳となった場合も 760 歳の発生回数にカウントされますが、1,000 万回実行して合計年齢が 760 歳になったのは約 400 回です。では、どちらも平均年齢 34.55 歳(合計 380 歳)が 2 回続けて発生し 760 歳となる回数を調べると 1,000 万回で僅かに 1 回です。このため、動作回数を 10 倍にし、1 億回動かしてみました。するとその発生回数は 22 回となりました。すなわち、2 回続くのはグラフでも分かるように有り得ない程、低い確率であると言えます。

山手線に乗ると、誰かが手帳を忘れていました。持ち主の携帯番号が書かれていますが 090-3..... となっていて下 7 桁が分かりません。取りあえず、それを家に持って帰って、下 7 桁を適当な数字を押して電話をしてみました。そしたら偶然、電話が繋がり、電話に出た相手はなんと手帳の持ち主でした。偶然というなら、こんな奇妙なことが小沢一郎氏に起きたということになります。